

## 1 学期の多大なるご協力に感謝申し上げます

学校長 杉森伸吉

ご家庭も学校も、3月の初め頃から、未知の伝染病で全国一斉休校という、日本の学校史上でも類を見ない事態を経験いたしました。その中で、いろいろとご家庭でもご苦労がおりだったことと思いますし、逆にいろいろな気づきや発見などもありだったのではないかと思います。様々な状況が変化する中で、学校のスケジュールも影響を受け、二転三転する中で、それぞれのご家庭のご協力のおかげで、大きな事故もなく、通常とは大きく異なりましたが、無事に1学期を終了することができました。あらためて、ご理解とご協力に、教職員一同、心より感謝とお礼を申し上げます。2学期以降も予断を許さぬ状況ではございますので、ご家庭と本校の連携を一層緊密にし、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

新1年生とご家族の皆様には、入学式の前にオンラインで担任と朝の会をするというきわめて異例なスタートの中で、不安や心配などいろいろな思いをお持ちだったことと思いますが、冷静かつ適切にご対応いただきまして、重ねて御礼申し上げます。2年生以上の皆さんは、1年生に会える日を心待ちにしている、3月の終業式の日、各学年ごとに、入学のお祝いメッセージをビデオ録画してくれていました。入学式で1年生たちにお見せしましたが、とても入学を祝う気持ちにあふれていて、感動的でした。

オンライン朝の会を実施するとともに、先生方が、休校中に週に一回は、クラスの保護者の皆様と電話でお話するようにしたことで、先生方も今まで以上に保護者の皆さんと思いを共有し相互理解ができて、スムーズにクラスづくりに入れたということでした。

このように、変化が大きく、不確実・曖昧で複雑な状況は、一種のピンチではありますが、そこからしか学べないことが、実はたくさんあるのではないかと、とも思います。ピンチをチャンスに変える、という意味では、ピンチの陰にチャンスの芽がたくさんあるのです。今までの学校が対面を基本としていたのに対して、遠隔授業のノウハウを開発できるということや、電話面談でも毎週行えば教員とご家庭の相互理解が進みやすいという気づきなどもその一つです。

毎年当たり前のように行っていたこと（全校児童が参加する入学式、和楽会、全校遠足、生活団活動などなど）が、「密を避ける」という条件が入るだけで、これだけ大きく変わってしまうということに、あらためて安全・安心がある環境の大切さを感じました。もともと子どもたちは密な中で育つものです。子ども時代に密を避けることを強調されすぎて、かえって成長の機会を逃してしまうことは避けねばならない、ということも感じた次第です。

3月、4月、5月と、子どもたちの声がしない学校に教職員も分散出勤し、子どもたちの声がしない学校のわびしさをかみしめていました。それだけに、学校に教職員がいて子どもたちがいる、ということがどれだけありがたいことか、あらためて感じることができましたし、多くの子どもたちも、学校に行けることのありがたみを感じてくれたことと思います。

夏休み、いろいろな制約をチャンスに変えて、心豊かに過ごされますように、そして2学期も元気な菊の子たちに会えるのを楽しみにしております。